



安全就業ニュース



すべての災害は防ぐことができる

私たちのシルバーから事故を無くしましょう！

目標は
事故「0」

- 安全の確保を最優先にしましょう。
慣れや過信は事故のもと、今いちど確認しましょう。
- 安全就業は、自分のためのものでもあります。自分の身も守り、
これからも事故のない就業を通じて「いきいき」とした人生にしましょう。

剪定作業での事故が多発しています

5～6月は
事故件数が急増！



今いちど、「安全はすべてに優先する」を念頭に置いて就業を心がけてください

少しでも危ないと感じた時は作業を中止し、
判断に困る場合は、事務局(☎ 32-2633)に連絡をしてください。

◆ 剪定作業で特に注意すべきこと ◆

- 保護帽、墜落制止用器具(安全帯)着用の徹底
- 作業現場の確認、機械の整備、複数人での作業の徹底
- 安全が確保できない現場は、請け負わない
- 加齢による身体機能低下を十分認識すること
- 作業の着手前に周辺をよく観察し、段差や凹凸などを
頭に入れて作業をすること



事故の発生状況を
まとめているので
裏面をご覧ください

事故情報を共有し
防止に努めましょう

絶対に守るべきは、**保護帽(ヘルメット)の装着**です！！

脚立・足場板を使用する場合は、**墜落制止用器具(安全帯)**が必須。



お客様から、お礼の声が多数寄せられています。そのうち1件ご紹介します。発注者：松江市のお客様(企業)より
「接遇がとてもよい会員を派遣していただきありがとうございます。都合により辞められて残念です」と連絡をいただきました。

発行：公益社団法人米子広域シルバー人材センター 業務時間：8:30～17:15

〒683-0811 米子市錦町1丁目110

※土日祝日は休みです

電話 0859-32-2633 FAX 0859-32-5823 E-mail yonago@sjc.ne.jp

緊急連絡先 070-5678-0253 ※急を要さない就業に関する相談、トラブル等については、平日に連絡をお願いします。

ホームページ <https://yonago-sjc.net/> フェイスブック <https://www.facebook.com/yonagosc>



ホームページ

● 5月13日（月）14：00頃 （男性・70代）

事故の発生状況です

〈事故の状況〉

剪定作業中、樹木根元付近を移動したところ、コンクリート製排水枡に落下し、左脇腹をぶつけた。枡には鉄板で蓋がしてあったが、鉄板が腐食しその上に落ち葉もあり、枡があることに気づけなかった。数日後、痛みが残っていたため受診した。

〈事故の原因、対策(班長より)〉

枡があることを発注者から事前に説明がなかった。
剪定した枝木もあり、確認ができなかった。
作業前に剪定作業場所の安全確認を行っていなかった。
今後は、安全確認を実施し、危険予知を作業会員に周知するようにする。

〈けがの状況〉

肋骨(2本)骨折。経過観察。

● 5月17日（金）11：30頃 （男性・80代）

〈事故の状況〉

剪定作業後に、駐車場に駐車してあった車の所有者からボディに複数の擦り傷がついていたと連絡があった。切り落とした枝が直接、車に当たらないようにブルーシートをかぶせ作業を実施していたが、作業日は風がありブルーシートがめくれ落ち、傷がついた可能性があった。

〈傷の状況〉

車体ボディ屋根に複数の擦り傷。ディーラーにて修繕予定。

● 5月29日（水）14：00頃 （男性・70代）

〈事故の状況〉

剪定作業中、切り落とした枝がフェンスに当たり破損させた。

〈破損の状況〉

フェンス横棒が変形。修理業者に依頼し修繕済。

● 6月4日（火）9：45頃 （女性・60代）

〈事故の状況〉

家庭内清掃作業中、洗濯機の上の棚に頭をぶつけた。出血があったため受診。

〈けがの状況〉

頭部打撲及び切創。

● 6月7日（金）15：00頃 （男性・80代）

〈事故の状況〉

剪定作業中、三脚を立て電動式チェーンソーで枝を切断していた。枝木が三脚側に倒れ込んできたため、電動チェーンソーでとっさに防ごうとしたところ、チェーンソーの刃に手が接触し怪我をした。（安全ベルト・ヘルメット着用）

〈けがの状況〉

左手の小指付け根及び親指付け根部分切創。縫合処置。（通院2週間の予定）

熱中症に注意！！

梅雨が明けると夏本番となります。「熱中症」は、高温多湿な環境にすることで、徐々に体内の水分や塩分のバランスが崩れ体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態を指します。屋外だけでなく、屋内でも発症し、重症になると命にかかわる場合もあります。日頃から体力をつけて、日常生活での熱中症予防を心がけましょう。



こまめに水分を補給する

室内でも、屋外でも、のどの渴きを感じなくても、
こまめに水分・塩分、スポーツドリンクなどを
補給しましょう



脳梗塞 … 顔や言葉の異変、すぐ 119 番



脳の血管が突然詰まって、血流が途絶え、脳の神経細胞が死んでしまう病気です。脳の細胞は、突然血流が止まると数時間以内に完全に死んでしまい、再生は困難なため、一旦脳梗塞を起こすと重大な後遺症が残ったり、生命に関わることもあります。

一刻を争いますので、異変があればすぐ 119 番通報を！

◇蜂に刺されないための対策◇

蜂が活発に動き回るのは、巣を作って繁殖する春から秋にかけてです。特に夏は、屋外での行楽や庭仕事の際十分に気をつける必要があります。蜂は日中、餌を求めて巣の外で活動するので、見かける機会も増えます。日没後には、巣で休んでいます。

●肌を出さない、黒っぽい服装を避ける、蜂を刺激する行動を取らない

蜂は、一定の色の識別ができるといわれており、黒っぽい色、濃い色には強く反応します。蜂が近くに来て、棒や手で振り払うのは危険です。攻撃したと誤解され襲われることがあります。大声を出すのも避けたい行動です。

●もし蜂に刺されたら ※アンモニア水、尿は蜂毒には効果がありません

その場を離れて安全を確保する。
毒針が残っていたら速やかに取り除き、患部の周辺を指で強くつまみ、毒を出す。
冷水で患部を冷やし、毒が体内に回るのを抑制する。
赤く腫れ始めたら、抗ヒスタミン軟膏を塗る。

●目の回りを刺されたり、気分が悪くなったりしたら

すぐに病院に行く。119 番通報をし、一刻も早く医師の手当を受ける。

※アナフィラキシー反応は、過去に蜂に刺されたことのある人が再び刺された場合に起きます。



安全はすべてに優先する

～ 安全就業の心得 みんなで守ろう10箇条 ～

- ①日頃から健康管理に努め、常に健康な状態で就業しましょう。(年に1回は健康診断を)
- ②仕事の前日は十分に睡眠をとりましょう。
- ③服装・履物・保護具はそれぞれの作業に適したものを着用しましょう。
- ④仕事を始める前には準備運動をしましょう。
- ⑤保護具や器具類は使用する前に必ず点検しましょう。
- ⑥加齢による身体の機能低下を十分認識し、無理をしないようにしましょう。
- ⑦仕事をするときは急いだり、慌てたりせず、安全第一を心がけましょう。
- ⑧就業の場は常に整理整頓を心がけましょう。
- ⑨共同で仕事をするときは、合図・連絡を正確に行いましょう。
- ⑩行き帰りも仕事のうち、交通事故に遭わないようにしましょう。



就業上の注意事項について

～発注者からのクレーム、トラブルを防ぐために～



1. 発注者との事前の打合わせは必ず行ってください
「作業日時」「作業時間」など、丁寧な説明を心がけてください。
2. 就業報告書は正しく記入し、早めに提出をお願いします。
※発注者のサインは、就業(作業)完了確認書に求めてください

センターが受注処理していない仕事を終了し、就業報告書の提出がなされた場合は、「無届就業」であり、センターが受注し会員に提供した仕事に該当しません。
このことは、明確な「センター就業規約」違反であり、最終的には、定款に基づき処分の対象となるような重大な規律違反です。

また、センターが受付をしていない「無届就業」についての事故やトラブルは、センターの評判を下げるだけでなく、対応についても各会員の自己責任で解決していただくことになります。また、シルバー保険も適用されませんので、厳に慎んでください。

発注者から直接仕事を依頼された場合は、必ずセンター事務局に連絡をするか、発注者から直接事務局へ申込みをするよう説明してください。



【お願い】 お客様宅で直接、現金の授受を行わないでください

※ちよっこしおたすけサービス(旧ワンコインサービス)と
障子・襖・網戸は対象外です。

会員がお客様宅で作業後に、現金を直接受領することは、
トラブルの原因となりますので、絶対に行わないでください。
また、私製の領収証を渡すことも行わないでください。

【想定されるトラブル】

- ・請求書を発行する前に現金授受が行われた。
→本来の請求額と異なる可能性もあり、差額支払いを拒まれてしまいかねない。
- ・お客様からいくら受領したのか客観的な事実が残らない。
→その場で領収証が発行できず、後日トラブルとなりかねない。

安全はすべてに優先する・・・声かけを行うなど周囲の状況を確認しながら作業を行ってください

- ◎仕事をするときは急いだり、慌てたりせず、安全第一を心がけましょう
- ◎共同で仕事をするときは、合図・連絡を正確に行いましょう

※事故が発生した場合、すみやかに事務局に電話連絡してください(☎ 0859-32-2633)

一刻を争う場合は、迷わず「119番通報」して救急車を呼んでください

